

2018年8月31日

朝日新聞英語版の「慰安婦」印象操作中止を求める有志の会  
ケント ギルバート 殿  
山岡 鉄秀 殿

株式会社朝日新聞社  
広報部長 後田 竜衛

冠 省

今月22日と27日にいただいたご質問にまとめてお答えいたします。

**【8月22日のご質問】**

- 「1. 慰安婦の大半が朝鮮人であったと認識しているのか」「2. 慰安婦の人種別の割合をどのように認識しているのか」について

慰安婦の総数や民族、人種別の人数を示す公式記録はなく、研究者の推計にはさまざまな数字があります。アジア女性基金のサイトには「各種の資料を総合して言えることは、朝鮮人慰安婦は多かったが、絶対的多数を占めるにはいたっていないということです。日本人慰安婦も多かったと言えます」と書かれています。

- 「3. ふたつの記事に["noindex, nofollow, noarchive"]のタグを加えた合理的根拠」「4. 責任の所在」について

2014年8月22日に慰安婦問題に関する英文記事を複数配信しました。その際、記事に検索回避タグを設定し、社内の確認作業を経たのちにこのタグを解除して一般公開しました。このうち見出しが長いことから別のシステムを使って作業していた2本で、一般公開はしたものの、検索回避タグの設定解除作業の漏れがあったことが分かり、修正いたしました。詳しくは下記のとおりです。

- 1：記事の体裁等を最終確認するため、検索回避タグを設定して外部配信
- 2：確認後に順次、タグを解除
- 3：このうち2本で設定解除作業が漏れる

- ・配信した記事をまとめた特集ページは、検索結果で表示されます。  
（ご参考「特集ページ」：  
<http://www.asahi.com/topics/ianfumondaiwokangaeru/en/>）
- ・本社の英語サイト「The Asahi Shimbun | Asia & Japan Watch」に、上記ページへのリンクを設けてあります。  
（ご参考「特集ページ」：[http://www.asahi.com/ajw/inhouse\\_news/](http://www.asahi.com/ajw/inhouse_news/)）

### 【8月27日のご質問】

- 「1. テストサイト用にメタタグを入力するということは、外部に開かれた環境でテストしているという意味か。社員専用のサイトでなぜメタタグ必要なのか」について

朝日新聞デジタルの配信システムにはテスト環境がないため、公開時と同様の状態で確認する必要がある場合、社外サイトから検索しても表示されないタグをつけて実際に外部に配信して確認しています。

- 「2. 記事が日本語サイトで作成され、言語が日本語指定されている理由。なぜ英語サイトに移さないのか」について

当日は日本語版と掲載サイトを一元化するために朝日新聞デジタルで作業し、朝日新聞社の英語サイト「The Asahi Shimbun | Asia & Japan Watch (AJW)」からは朝日新聞デジタルで配信した英語記事のまとめページにリンクを張りました。その後はAJWでも慰安婦関連の英語記事を配信し、英語版のまとめページを作成しています

([http://www.asahi.com/ajw/inhouse\\_news/](http://www.asahi.com/ajw/inhouse_news/))。ご指摘の日本語サイト内のページへのリンクも張っています。またAJWのトップページには、2014年からこのまとめページへのリンクを張っています。

- 「3. リコメンドエンジンを除外するタグが、なぜテスト環境で必要なのか」について

リコメンドエンジンが推奨する記事は、広告系の記事と一緒にされることがあるので、使いませんでした。

■「4. 検索エンジン忌避のメタタグを、なぜ継続更新中の訂正とお詫びにまで入力する必要があるのか」について

「訂正・お詫び」にも検索回避タグが設定されているのではないかとのご指摘をいただいておりますが、見出しに「訂正・お詫びあり」と明示し、当該箇所を修正、記事の末尾に「訂正・お詫び」を追加した記事には検索回避タグを設定しておりません。過去1週間の「訂正・お詫び」をまとめた一覧ページに掲載する「訂正・お詫び」には、前述の記事と重複するため検索回避タグを設定しています。詳しくは下記のとおりです。

- ・朝日新聞東京本社版最終版に掲載した記事に「訂正・お詫び」を出す場合、朝日新聞デジタル上では、以下の対応を取っています。
  - 1：見出しに「=訂正・お詫びあり」と明示。
  - 2：本文中の当該箇所を直す。
  - 3：記事の末尾に紙面掲載しているものと同じ「訂正・お詫び」を結合する。
  - 4：当該記事は、会員以外の方でも読めるよう無料で全文公開する。
  - 5：過去1週間の訂正対応をまとめて見るための一覧ページにも更新する。  
(ご参考「一覧ページ」：<http://www.asahi.com/news/corrections/>)
- ・一覧ページそのものも、訂正・お詫びがある記事も、検索結果で表示されません。
- ・ご指摘があったのは、上記「5」の一覧ページ内用の「訂正・お詫び」です。本文内の訂正と重複するために一般的な検索からは除外しています。

■「今後どのようなアクションを取る予定か」について

今後も必要に応じ、ご説明いたします。

回答は以上です。よろしく願いいたします。

草々